

中島案内解説

この小冊子「齋田記念 中島案内」は1916（大正4）年に、当時の、愛知県碧海郡六ツ美村大字中島（現、岡崎市中島町）で行われた悠紀齋田の行事を記念して当地、中島を広く世に知ってもらうために作られた。因みに、時代は第1次世界大戦（1914～1918）の最中であった。この小冊子はA6版、70ページ余りの小冊子であるが、齋田の行事の概略のほか、当時の農村の社会、行政システムや伝統文化、歴史などの状況が数字データとともに、簡潔ながらも幅広く記述されており、当時の様子を知る上で資料価値のある文献である。（今でも古書目録に載っている。また国立国会図書館デジタル化資料 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/932592> にも収蔵、公開されている。）

この小冊子の内容は、

- ・ 当時の人口は中島全体で約1500人。今日の一町内の規模とほとんど同じであった。
- ・ 全国から注目される齋田という国家事業の指定を受けたことを光栄に思い、その中心となって、これを成し遂げようとする人々の、やる気と盛り上がり伝わってくる。
- ・ この盛り上がりには、当時すでに世間に先駆け、苦勞して完遂した耕地整理という農業改革、農業近代化、これに伴う生産性向上の成果、これらの成功体験からくる自信がベースとなっていると考えられる。
- ・ 当時は皇室尊崇と村落共同体の意識が強かった様子が分かる。青年会、在郷軍人会など当時あった組織も有効に機能しています。それと、なによりもみんな元気がよかったという感じがする。
- ・ 神社が4つ、寺院が3つ（今も同じ）あり、当時の人口（1500人）で、これらを運営できていたことから、生活と宗教の結びつきが今より強かったことが窺われる。なお、当時、小園神社は鬱蒼とした森であった。
- ・ 消防が42人もいた。軍人は36人いた。頼りになる人たちだったと考えられる。
- ・ 当時すでに西尾鉄道があった。運転ダイヤは約1時間1本で、今のバスダイヤの間隔と似ている。
- ・ 劇場があった。俳優（役者）さんも住んでいた。また、あの有名な齋田の画帖は中島に住んでいた画家が描いたものである。

目次は以下のようである。

齋田記念 中島案内 目次

緒言	播種水口祭 齋館
中島の起源	現時苗場の様 頃日中の概況
中島の位置	今後の祭式
面積地價	中島實業の一斑
戸口職別	奉祝記念
區劃 土地の沿革	中島駅
耕地整理	當五月現今中島発車時間
本村役場	各地へ陸路畧里程
齋田の事柄	小学校 郵便局
悠紀齋田	駐在所 區長事務所
齋田地主 齋田の構造	神職 宗教 青年會
警備所 用水	軍人會 消防組
事務所其他 日日祓	演藝場 名所舊跡
地方官 拝觀心得大要	名所
奉耕者 農具肥料其他	領主沿革畧
齋田祓式	古跡
	營業案内



中島案内



村社八幡社



悠紀齋田



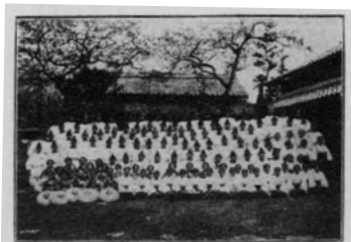
齋田親式



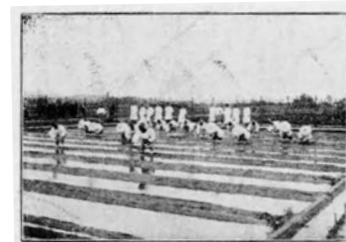
齋田全畝



齋田主一旗



奉耕者男女



齋田播種(一)



齋田播種(二)

本項は以下の資料を引用している。

[悠紀斎田中島案内]

編集人：牧 善丸、早川 治三郎
発行人：牧 善丸
印刷者：中村 角馬
発行日：1915（大正4）年6月5日
発売元：牧 つね、早川 芳太郎

[六ッ美村誌]

編者： 六ッ美村是調査会
発行： 六ッ美村是調査会
発行日：1926（大正15）年12月1日
発行所：日新堂書店
印刷所：活版印刷所